

## 〈調査報告〉

# 小川シゲノさんの口承文芸

大谷 洋 一

- 目次
1. まえがき
  2. 凡例
  3. 本文
    - (1) メノコユカラ：月に入れられた怠け者の少年
    - (2) メノコユカラ：スズメの酒盛り
    - (3) 言葉遊び：オンネパシクル

## 1. まえがき

本稿は、1996年7月25日に平取町貫気別の小川シゲノ氏（1921年生まれ）の御自宅において、筆者が氏から録音（センター所蔵音声資料：CC000348）したアイヌ口承文芸のテキストとその対訳である。語り手の小川氏については、『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第3号（1997）の調査報告「小川シゲノから上田トシへの伝承」に記している<sup>(1)</sup>ので本稿では省略する。

1996年7月から2002年6月までの間、筆者は小川氏からウエベケレ（散文説話）13編、メノコユカラ（女が演じる神謡）2編、言葉遊び1編のほか、信仰に関する体験談などを、計15点のテープに収録してきた。小川氏に対して筆者は「アイヌ語の言い回しの忘れたところは日本語でもいいから聞かせてください」というように依頼していたので、小川氏はアイヌ語にこだわらずに日本語を交えて口演されてきた。今までに公刊しているのは<sup>(2)</sup>、類話や採録例の少ないものを優先したウエベケレ4編であるが、上記の理由によってアイヌ語の語り部分は少ないものであった<sup>(3)</sup>。しかし今回紹介するメノコユカラと言葉遊びの3編は節をつけて語るものであり、ほとんどアイヌ語で語っている。貫気別及び近隣の地域で採録されたアイヌ語資料は決して多くはないので、本稿はアイヌ語及びアイヌ口承文芸研究の基礎資料として貴重である、と筆者は考える。

---

(1) 筆者は、小川氏の家系について詳しいことを伺っていないので、両親や祖父母の名前などを明記していない。  
(2) 大谷洋一（1997、1998、1999）「小川シゲノから上田トシへの伝承」「同2」「同3」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第3号、第4号、第5号、北海道立アイヌ民族文化研究センター。  
(3) このことが原因で、「語り手」として小川氏が過小評価されることを筆者は危惧していた。

なお、本稿の基になった音声資料 CC000348は、平成15年度から当研究センターにおいて公開している。

第1編の「月に入れられた怠け者の少年」と題した物語を要約すると、「爺さんから水汲みを命じられたが俺は行かないでいると、怒った爺さんが火箸で俺を叩いたので、炉ぶちの杭、火棚、柱などに悪態をつきながら川へ行つた。そこでも水を汲まないで怠けていたところ、俺は神に罰せられて月に入れられた」という、月の表面に手桶を持った人がいることの由来譚になっている。

小川氏はこの物語を口演する前に「火の神さんのウウエペケレ」と呼んでいたが、主人公は火の神ではなく、火の神を養う<sup>(4)</sup> ために必要な作業である水汲みを怠けた少年である。また、ウウエペケレという言葉を用いているが、これはジャンル呼称としてではなく、「お話、昔話、物語」という程度の意味である。小川氏は散文説話ばかりでなく韻文説話や言葉遊びについても「ウウエペケレ」と表現することがある<sup>(5)</sup>。

本編を含めたアイヌ語原文のついている類話8編<sup>(6)</sup>を比較すると、物語中の自叙者が二通りに分けられる。本編のように怠け者の少年が自叙者の場合は、罰せられた少年が月に入れられたところで語り終えられるが、その少年の母親（あるいは家族）が自叙者になった場合は、少年の行き先を知るために母親と魚が会話するというモチーフが加わり、少年がサケだけでは敬意を示していたということが述べられている。

類話を見ると、新冠の鹿戸ヨシ氏の場合は、1974年には少年の自叙で口演し<sup>(7)</sup>、翌年は少年と母親が交互に自叙する形で口演<sup>(8)</sup>しているなど、語りの場によって自叙者を替えているのが興味深い。サケへ（折り返しの句）は地域によってまちまちである。沙流川すじでは基本的に「サンタトリパイナ」というサケへで語っているが<sup>(9)</sup>、小川氏は全くストーリーが異なる神話のサケへと似た

(4) 小川氏は「フチアペ パロイキっていえば、もの炊いて、なに炊いても先にアベフチさ、昔はなんか、肉でも魚でもしたら、先に火の神さんさ祀ったもんだ。うん、そして、なに仏さん。見送りするたって、先にこさえたもの、みんな、お膳、こさき置いて、団子でもなんでもして、先に火の神さんさ祀って、それからあの仏さん、シヌラッパっていうものしたもんだもの」と説明された。

(5) このような表現は、小川氏の他にも見られる。例えば、田村すず子(1988)『アイヌ語音声資料5』早稲田大学語学教育研究所のp84には、平村つるが「han cikiki uwepeker を言う」と言った後に、この地域では通常メノユカカと呼ぶジャンルの文芸を口演している。

(6) 類話を刊行順に記す。類話の説明は対訳だけのものも含めて、下記④(藤村)に詳しい。①金田一京助(1942)「サンタトリパイナ一月中の人の元を物語るの歌」『アイヌ叙事詩ユーカラ概説』青磁社／②久保寺逸彦(1977)「神話72 自叙神未詳」『アイヌ叙事詩 神話・聖伝の研究』岩波書店／③藤村久和(1983)「月の神に召されたなまけもの話」『アイヌの民話1 AINU FOLKLORE 1』財団法人アイヌ無形文化伝承保存会(同じ採録資料からの報告：大塚一美(1990)「息子が月に立たされているには、怠け者に対する神々の罰と知った母親の自叙」『アイヌ民話全集1 神話編1』北海道出版企画センター)／④藤村久和(1988年)「我が子を月に召される母親の物語」『昭和62年度アイヌ無形民俗文化財記録刊行シリーズI アイヌ民話』北海道教育委員会／⑤高橋規(1990年)「水汲みを嫌がる怠け者の子供の話」『平成元年度アイヌ無形民俗文化財記録刊行シリーズ3 オイナ(神々の物語)1』北海道教育委員会／⑥志賀雪湖(1992年)「ものぐさっ子」『平成3年度アイヌ無形民俗文化財記録刊行シリーズV オイナ(神々の物語)2』北海道教育委員会／⑦萱野茂(1998年)「トランネヘカチ からっばやみの子供の話」『萱野茂アイヌ神話集成第3巻カムイユカラ編Ⅲ』ビクターエンタテインメント／⑧大谷洋一(2006)本編

(7) 注(6)の⑤の物語。

(8) 注(6)の⑦の物語。

言葉<sup>(10)</sup>で語っている。小川氏によると、祖母がこのメノユコカラを語るときに祖父が「スイスイ(またまた)、また、バッコ(婆)は、スノーケ ウウエペケレ(嘘のお話)言う気になってる」あるいは「フチ(婆)、また、エホラタンク<sup>(11)</sup>(嘘言う)する」などと発言したという。このことから筆者は、伝承元の祖母がサケへを違えて語っていた可能性があると推測する。

この物語は2000年1月29日に再録(センター所蔵音声資料:CC000976)し、本編の対訳の参考にしてている。

第2編「スズメの酒盛り」を要約すると「スズメが穀物を搗いて、村中の人間の青年を招待し、酒宴を開いて踊っていると、カラスの若者が外から糞の塊を持ちこんで酒の容器に入れた」という短い内容である。類話は18編以上の公刊がある中でアイヌ語原文を載せているのは本編を含めると6編だけである<sup>(12)</sup>。これらの類話で詳しい内容をもつものは、「カラスに対して怒った者たちへの仲裁をスズメがいろいろな鳥に頼む場面」と「カラスが殺される場面」があり、登場する鳥の種類が変わるたびにサケへも変化する特徴がある。しかし本編は「ハンチキキ」という同一のサケへで語られている。本編に自叙者の名前が出てこないの、2006年2月14日に小川氏に再確認すると、類話と同様にスズメの自叙であることが判明した。類話では、スズメが他の「神々」を招待して酒宴を開くことになっているが、本編はスズメが「人間の若者」を招待するという珍しい内容になっている。

第3編の言葉遊びは決まった呼称はついていないが、「オンネパシクル」という言葉でこの短い文芸を連想する語り手が多い。小川氏も「オンネパシクル イーネって、ウウエペケレあるっしょ」と述べてから語り始めている。

北海道各地で類話が伝承されているが、演じ方やストーリーにバラエティーがある<sup>(13)</sup>。同じ貫気別出身でそこに在住する語り手から採録した類話<sup>(14)</sup>では、語り納めが「カラスの羽で作った矢を射ると、それが矢羽根草になった」という植物の由来を述べているが、本編は「(矢を)射ってしま

(9) 知里真志保(1961)「アイヌの神謡(ニ)」『北方文化研究報告』第十六輯、北海道大学

(10) 久保寺逸彦(1977)『アイヌ叙事詩 神謡・聖伝の研究』岩波書店、所収の「1 火の姫神の自叙」のサケへはape merukoyan koyan, matateya tenna といい、片山龍峯(1995)『カムイユカラ』片山言語文化研究所、所収「火の神(アベフチ カムイ)のカムイユカラ」のサケへは「アテヤテヤテンナ テンナ」という。本編とサケへは似ているが、ストーリーは全く異なる。

(11) エホラタンクは「よく嘘をつく人」の意味であるがアイヌ語ではない。沙流川すじや鶴川すじの人たちが用いたが、今はほとんど聞くことはない。タンクとは気体や液体を収容する容器のことである。エの意味はよくわからない。よく屁をする人に対して、近くにいた人が「この、ガスタンク!」などと叱ったりする。

(12) ①金田一京助(1942)『アイヌ叙事詩ユーカラ概説』青磁社/日本放送協会(1965)『アイヌ伝統音楽』日本放送出版協会/②国立民族学博物館(1987)『国立民族学博物館研究報告別冊5号』国立民族学博物館/③田村すず子(1988)『アイヌ語音声資料5』早稲田大学語学教育研究所/④萱野茂(1988)『カムイユカラと昔話』/⑤田村すず子編(2001)『アイヌ語沙流方言の音声資料1-近藤鏡二郎の音声テープに遺されたワテケさんの神謡(「環太平洋の言語」成果報告書A2-008)』大阪学院大学情報学部

(13) 大谷洋一(1996)「「オンネパシクル」について」『口承文芸研究第19号』日本口承文芸学会。沙流川流域の語り方やジャンル呼称などについて詳しいのは、田村すず子(2000)「神謡について」『アイヌ語音声資料12 語研選書35』早稲田大学語学教育研究所。

(14) 大谷洋一(1996)「「オンネパシクル」のアイヌ語原文資料」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第2号、北海道立アイヌ民族文化研究センターで各地の類話を紹介している。貫気別伝承は、1995年5月に川越トシ子氏から採録したものである。刊行4ヶ月後、小川氏から「オンネパシクル」を採録した。

った」ところで終わっている。

この物語は1997年2月27日に再録（センター所蔵音声資料：CC000366）している。

本稿のモニターとして、誤りや改善方法について多くの指摘と指導を下さった先生がたに心からお礼申し上げる。

## 2. 凡例

### (1) 本文の構成

二段組として、左側にアイヌ語による語りの部分、右側にその日本語訳を記し、注記は各ページの下に記した。

### (2) カタカナの表記

基本的に北海道ウタリ協会発行の『アコロ イタッ』の表記の仕方と同じである。ただし音節末の r はそのときどきで、ラ、リ、ル、レ、ロ、に近い音が出たり、母音がついたりする場合があるので、それが比較的に目立つ場合はその近い音を記した。また特に長く伸びた音には「ー」を記した。例：コロ《…しながら》が「コル」や「コロー」、ピリカ《良い》が「ピルカ」や「ピリーカ」。

音素交替によって変化した音はそのとおりに記した。例：「ポン セタ」が「ポイ セタ」。

### (3) ローマ字の表記

これも基本的に『アコロ イタッ』と同様に記した。話し手の言いよどみは（ ）で括ったり、後で話し手が言い直した形に置き換えたりした。そうした箇所は注で明らかにした。語りが日本語になった場合は全て大文字で記した。音素交替を起こしたところは、単独で発声した場合の形で記した。例：「poyseta」が「pon seta」。(4)音や意味の解釈が不確実な語句についてはその語尾に「??」を付けた。

## 3. 本文

### (1) メノコユカラ：月に入れられた怠け者の少年

アペ レポレポ コヤン コヤン マッ<sup>(15)</sup>

ape repo repo koyan koyan mat

アペ レポレポ コヤン コヤン マッ

アテヤ テンーナ アテヤ テンーナ

アテヤ テンナ アテヤ テンナ

ateya tenna ateya tenna

(15) マッ mat と次行のアテヤ ateya が連なってマタテヤのようにも聞こえる。また、当初はローマ字表記を「apere pore pokoyan koyan mat」と分かち書きしていたが、モニター B の指摘により「ape repo repo koyan koyan mat」と修正した。筆者も語源的にこれが相応しいと思う。

アコル エカーシ エネ ハワーニ <sup>(16)</sup>	
a=kor ekasi ene hawan hi	俺のじいさんがこのように言った。
アルパー ワ ワッカタ ワ エーク セコル	
“arpa wa wakkata wa ek” sekor	「行って、水汲んで来い」と
イイエー ヤーッカ アトラ…、エトランネー ワ	
i=ye yakka a=etoranne wa	俺は言われても怠けて
アルパ カ ソモ キー セ <sup>(17)</sup>	
arpa ka somo ki (se)	行きもしなかった。
アコル エカシ イルシカ キー ワ	
a=kor ekasi iruska ki wa	じいさんが怒って
パ、アベパスイ ウク ワ	
(pa) apepasuy uk wa	火箸を取って
イトイコキークキク イウエンコキークキク	
i=toykokikkik i=wenkokikkik	俺をひどく叩いた
ネワ アンーペ ア、イルシカアンー ワ	
ne wa an pe (a) iruska=an wa	ので俺は腹を立てて
ホッケ <sup>(18)</sup> パーテック アナン アークス、ウ…	
hotke patek an=an akusu (u)	寝てばかりいると
ニシャッタ アンー コロ また	
nisatta an kor MATA	朝になるとまた
アラパ ワ ワッカター ワ エク セーコル	
“arpa wa wakkata wa ek” sekor	「行って、水汲んで来い」と
アベ レボレボ コヤン コヤン マツ	
ape repo repo koyan koyan mat	アベ レボレボ コヤン コヤン マツ
アテヤ テンナー アテヤ テンナー	
ateya tenna ateya tenna	アテヤ テンナ アテヤ テンナ
アイヌパークス エチオカ アナークネ	
“aynupakus ecioka anakne	「いいなあ、お前たちは <sup>(19)</sup>

(16) 小川氏はハワニ、ハウエアニ haw(e)an hi と発音する。

(17) セ se の音は不詳。また、この行の動詞 arpa 「行く」は第一人称接辞が脱落している。

(18) ホッケ hotke の第一人称接辞アン =an が脱落。本編では、自叙者が動作主であっても人称接辞が落ちる類例がある。「ホッケ パテック アナン hotke patek an=an」「ホッケ パテック アキ hotke patek a=ki」。再演では日本語交じりで「ホッケアン hotke=an していれば」「ホッケ hotke して」のように第一人称接辞が付く場合と付かない場合があった。小川氏の語るウウエペケレでは、日本語の割合が多い語りで人称接辞の脱落傾向が強くなる。

(19) エチオカ ecioka という単語を「お前は」と訳していたが、モニター B に指摘により、全て「お前たちは」に修正した。

(イウ、イウ) イウンペ <sup>(20)</sup> サウーシベ	
(iw, iw) inumpesauspe	炉縁の作業台
エチネー ワ ワッカター カ	
eci=ne wa wakkata ka	だから水汲みも
ソモキーノ	
somo ki no”	しないで」
アペ レボレボ コヤン コヤン マッ	
ape repo repo koyan koyan mat	アペ レボレボ コヤン コヤン マッ
アテヤ テンナー アテヤ テンナー	
ateya teya tenna ateya tenna	アテヤ テンナ アテヤ テンナ
まだ アコル エカーシ イルシカー ワ	
MADA a=kor ekasi iruska wa	また、じいさんが怒って
アルパー ワ ワッカター ワ エッ セーコル	
“arpa wa wakkata wa ek” sekor	「行って水汲んで来い <sup>(21)</sup> 」と
イ、イイエー <sup>(22)</sup> ヤーッカ アヌ フミー カ	
(i)i=ye yakka a=nu humi ka	言われても俺は聞きも
イサムノ ホッケ パーテッ	
isamno hotke patek	しないで寝てばかり
クンネ ヘーネ トカッ ヘーネ	
kunne hene tokap hene	夜も昼も
ホッケ パーテッ	
hotke patek	寝てばかり
アキコロ アンー ワ <sup>(23)</sup>	
a=ki kor an wa??	でいると
アペ レボレボ コヤン コヤン マッ	
ape repo repo koyan koyan mat	アペ レボレボ コヤン コヤン マッ

(20) ここはイウンペと聞こえていたが、モニターBの指摘により聞きなおし「イウンペ」と修正した。小川氏の再演ではイヌンペ サウシベ inumpesauspe と発音している。

(21) ここは「水を汲んで来い」と訳していたがモニターBから「水を汲んで来い」と訳すのなら wakka ta wa ek と表記した方がいい。逆に wakkata wa ek とするのなら、「水汲みをしてこい」と訳した方がいい」と指摘された。本編の wakkata wa ek の訳について筆者は「水汲んで来い」と「水を汲んでこい」の二通りを混在させていた。小川氏は wakkata を用いているので「水を汲む」ではなく「水汲み」に修正した。

(22) 「イ イエー i=ye」としていたが、モニターBの指摘により、「イ、イイエー(i) i=ye」と修正した。

(23) ワ wa の音が聞き取りにくい。当初、「アキコロ アンー ワ a=ki kor an wa」としていたが、モニターBから a=ki kor an yak の可能性がある指摘を受けた。小川氏の再演では hotke patek の後にアキ ワ a=ki wa と述べているので、ここも「ワ wa」と言おうとしたと筆者は解釈した。また、ここではアナン an=an とすべきところを人称接辞アン =an が脱落したと思われる。

アテヤ テンーナ アテヤ テンーナ  
ateya tenna ateya tenna  
アイヌパークス エチオカ アナークネ  
“aynupakus ecioka anakne  
(トゥナ エーネ) トゥナ エネ ネークス  
(tuna e=ne) tuna e=ne, (ne) kusu  
ワッカター カ ソモキーノ  
wakkata ka somo ki no  
エチオーカ アイヌパークス  
ecioka aynupakus”  
アペ レボレボ コヤン コヤン マッ  
ape repo repo koyan koyan mat  
アテヤ テンーナ アテヤ テンーナ  
ateya teya tenna ateya tenna  
ア…、アコル エカーシ イルシカー ワ  
(a) a=kor ekasi iruska wa  
また イトイコキークキッ  
MATA i=toykokikkik  
イウェンコキークキッ ネー アンペ<sup>(24)</sup>  
i=wenkokikkik ne wa an pe  
イルシカ ケウートウム アコル カネー ワ  
iruska kewtum a=kor kane wa  
ソイエネアンー ワ ソイオッタ<sup>(25)</sup>  
soyene=an wa soy or ta  
ソイエネアンー ワ  
soyene=an wa  
アイヌパークス エチオカ アナークネ  
“aynupakus ecioka anakne  
イクシペ ネーナ  
ikuspe ne na

アテヤ テンナ アテヤ テンナ  
「うらやましいなあ。お前たちは  
火棚だから  
水汲みもしないで  
お前たちはいいなあ。」  
アペ レボレボ コヤン コヤンマッ  
アテヤ テンナ アテヤ テンナ  
じいさんが怒って  
また俺をひどく叩いて  
滅多打ちにしたので  
俺は腹を立てながら  
外に出て、表に  
俺は出て  
「いいなあ、お前たちは  
柱だものな。」

(24) 小川氏によると、ネ ワ アンペ ne wa an pe の言い損ないということなのでローマ字は修正している。

(25) 当初、「ソイ オッタ」と記していたが、モニターBから「ソヨッタ」という指摘を受けて、何度も聞きなおしたが、ソイオッタとしか聞こえなかった。修正は「ソイ」と「オッタ」をつなげるに止めた。

イクシペ ネ クース

ikuspe ne kusu

柱なものだから

ワッカター カ ソモキーノ

wakkata ka somo ki no”

水汲みもしないで

アペ レボレボ コヤン コヤン マッ

ape repo repo koyan koyan mat

アペ レボレボ コヤン コヤン マッ

アテヤ テンーナ アテヤ テンーナ

ateya tenna ateya tenna

アテヤ テンナ アテヤ テンナ

ソイタ ソイエネアンー ワ<sup>(26)</sup>

soy ta soyene=an wa

俺は外に出て

セム オッタ アルパアンー ワ

sem otta arpa=an wa

物置に行つて

アペ レボレボ コヤン コヤン マッ

ape repo repo koyan koyan mat

アペ レボレボ コヤン コヤン マッ

アテヤ テンーナ アテヤ テンーナ

ateya tenna ateya tenna

アテヤ テンナ アテヤ テンナ

テウキ トupp アコル カネー ワ<sup>(27)</sup>

tewki tup a=kor kane wa

手桶を二つ持って

アイヌパクス<sup>(28)</sup>

“aynupakus

「うらやましいなあ。

アコル エカシ アルパ ワ

a=kor ekasi arpa wa

俺のじいさんが「行って

ワッカタ ワ エク セコロ

wakkata wa ek” sekor

水汲んで来い」と

クンネ ヘネ トカフ ヘネ

kunne hene tokap hene

夜も昼も

イトイキッキキ キ<sup>(29)</sup>、イウエンコキッキキ

i=toykokikkik i=wenkokikkik

とてもひどく叩く

ネワ アンペ イルシカ ケウトウム

ne wa an pe iruska kewtum

ので怒りの気持ちを

(26) ソイエネ soyene「外に出る」と表現した後に次行で「物置へ行く」ことが語られている。文脈上は母屋から離れて建つ小屋ということになるが言い損なつた可能性もある。

(27) 二つのテウキ tewki「手桶」を左右の手で片方ずつ下げて歩いている。

(28) ここから散文の語り口調になっている。

(29) イトイコキッキキ i=toykokikkik の言い損ない。

アコロ カネー ワ テウキ トゥフ

a=kor kane wa tewki tup

いだいて手桶を二つ

アコル カネ ワ ペトッタ ラワン…、

a=kor kane wa pet otta (rawan)

持って川に

ラバン<sup>(30)</sup> ワ ワッカター して

rap=an wa wakkata SITE

下りて、水汲みをして

テウキ トゥフ ワッカ アニー して

tewki tup wakka ani SITE、

手桶二つの水を持って

えー、たなんく<sup>(31)</sup> きになっただけー

(E) TANANKU KI NATTAKE

担ごうとすると

え、かわのしもさー へーマンター<sup>(32)</sup>

(E) KAWA NO SIMO SA, hemanta

川下から何かか

あー、エッ ヒネ エネ ハウエアニ えー、

(A) ek hine ene hawean hi (E)

来て次のように言った。

ウエンプリコル ウエンカッチャムコル

“wenpurikor wenkatcamkor

「素行も精神も悪い

ウェナイヌ<sup>(33)</sup> エネ クス、ウー

wen aynu e=ne kusu (u)

駄目な人間にお前がなったので

カムイ フチー パロオイキ<sup>(34)</sup> フチ カムイ

kamuy huci paro oyki huci kamuy

火の女神に食べさせて火の神様を

パロイキ しなきゃ なんないもの

paroyki, SINAKYA NANNAI MONO,

養わなければならないのに…。

ワッカタってー、いわれても

wakkata” TTE IWARETE MO

水汲め」と俺は言われても

テウキー アテケへ テウキ コトゥク するの

tewki a=tekehe tewki kotuk SURUNO

手桶が自分の手にくっつくと

イシトマ するもんだから

istoma SURUMON DAKARA

おっかないから

(30) 動作主は一人であるが、単数形ラナン ran=an を用いずに複数形で語った。

(31) 「たなんく」は「抱える、持ち上げる」という意味の日本語北海道方言「たなぐ(担ぐ)」である。

(32) ここは「川下に何かか来て」という意味にとれるが、モニター B の指摘で再確認すると、再演ではホパン ワ カムイ エッ ヒネ hopasi wa kamuy ek hine 「川下から神が来て」と述べてるので、そのように訳した。また、再演では川下からやって来た神を「オキクルミカムイ」と言ったり、「ホロケウカムイ(狼の神)」と言ったりしている。小川氏にどちらなのかを確認すると、オキクルミカムイということであった。

(33) ウェナイヌとも聞こえる発音である。

(34) 当初、パローイキ paroyki と記したが、モニター A、B の指摘により再確認すると、パロオイキ paro oyki と発音していたので修正した。

ワッカタ ソモキノ

wakkata somo ki no

水汲みをしないで

アナン アクス ネワ アンペー

an=an akusu ne wa an pe

いたので

カムイー エク ワー あー、じぶんさ おこってー

kamuy ek wa (A) ZIBUN SA OKOTTE

神様が来て俺を怒って

ウェンプリコル ウェンカッチャムコル

“wenpurikor wenkatcamkor

「悪い行いや考えを

エ、エキ するから

(e) e=ki SURUKARA

お前は持っているから

パカシヌ しゆるからってー、えー、

pakasnu SURUKARA” TTE (E)

罰を与えるぞ」と

カムイ イェ ワー こんどー

kamuy ye wa KONDO

神様が言って

あの一、お月さんのところに、夜だか、こう、

両方で手、手にこう、あの一 バケツ一、両方でたないで

パカシヌしゅられてー (罰せられて)、

それで、ツッ<sup>(35)</sup> オッター (月のところで)、あの一、

こう、両方でたないで、水たないでいるって

それがこの一 火の神、火の神さんが一、言って一 え一、

それでその水、汲むのに カムイ (神) にパカシヌしゅられて

そやって一 ツッ オッタ (月のところに) 行って

いっしょけんぺいー (一所懸命) 夜昼、テウキ (手桶)

二つ、たないでいたもんだって、それ一、この一、

カム…、カムイフチ (火の女神) のユーカル (物語) っちゅうのか、

メノコユカル (神謡) っちゅうのか、なんちゅうんだか、

そやって、俺ら子供の頃聞いたことあるんだ。

(35) 小川氏によると、月も太陽もツッカムイ cup kamuy と呼称し、特に月を指す場合にクンネツッ kunnecup という。門別町の厚別川すじ出身者の松島トミ氏と鍋沢キリ氏、平取町の沙流川すじ出身の上田トシ氏もチュッではなく、ツッと発音することが多い。

(2) メノコユカラ：スズメの酒盛り

ハンチキキー ハンチキキー	
han cikiki han cikiki	ハンチキキ ハンチキキ
シネ アーマム プース	
sine amampus	一本の穀物の穂 <sup>(36)</sup> を
ハンチキキー ハンチキチー <sup>(37)</sup>	
han cikiki han cikiki	ハンチキキ ハンチキキ
チタ ターターター <sup>(38)</sup>	
ci=tatatata	白についた
ハンチキキー ハンチキニ <sup>(39)</sup>	
han cikiki han cikiki	ハンチキキ ハンチキキ
えー、トゥッコー レルコー	
(E) tukko rerko	二、三日 (たつと)
ハンチキキー ハンチキキー	
han cikiki han cikiki	ハンチキキ ハンチキキ
サケ ピリカー ナー	
SAKE pirka na	酒が美味しくできました。
ハンチキキ <sup>(40)</sup> ハンチキキ	
han cikiki han cikiki	ハンチキキ ハンチキキ
コタン ケスーン コタン パーウン	
kotankes un kotanpa un	村の下手に、村の上手に
ハンチキキー ハンチキキー	
han cikiki han cikiki	ハンチキキ ハンチキキ
アイヌ オッカイポ ウタラ <sup>(41)</sup>	
aynu okkaypo utar	人間の青年たちが

(36) 当初、アマムプス amampus を「ヒエの穂」と訳していたが、モニター B からアマム amam 「穀物」を「ヒエ」と限定した根拠を求められた。2006年2月14日に小川氏に対して「ハンチキキのアマムの意味はなにか?」と訊ねると、最初に「ヒエ」と言ったが、その後に「アワ、コメ」と順に意味を述べられた。本編のアマムはどれを指すのが判然としないので、「穀物」と訳しておく。

(37) ハンチキキーの言い損ない。

(38) 久保寺逸彦編 (1992) 『平成3年度久保寺逸彦アイヌ語収録ノート調査報告書』北海道文化財保護協会：「145 chitatata 我白に搦く。」

(39) ハンチキキーの言い損ない。

(40) 語頭の h が落ちかかって聞こえる。

(41) 類話では、アイヌ aynu 「人間」は登場しない。。

イヤシケウク ナー

iyaskeuk na

人を招きました。

ハンチキキー ハンチキキー

han cikiki han cikiki

ハンチキキ ハンチキキ

ポロ イキンネー

poro ikinne

大きな列になって

コタン ケスーンー コタン パウーン

kotankes un kotanpa un

村の下手から、上手から

ウウェカルパ ワー

uwekarpa wa

集まって

ハンチキキ ハンチキキ

han cikiki han cikiki

ハンチキキ ハンチキキ

サケ ピリカー ワー

SAKE pirka wa

酒が美味しくできて

ハンチキキー え、

han cikiki (E)

ハンチキキ

イヌンパーシーネー

inunpa=as hine

酒をしぼって

ハンチキキー

han cikiki

ハンチキキ

みんなで そのさけー いいもんだから<sup>(42)</sup>

MINNADE SONO SAKE IIMON DAKARA

その酒がおいしいのでみんなで

のんで こんど ホリッパ して

NONDE KONDO horippa SITE

飲んで踊って

ソーカリ ホリッパ<sup>(43)</sup> したけ

sokari horippa SITAKE、(咳)

炉の周りを回って踊ると

パシクル<sup>(44)</sup> オッカイポ テルケテルケ して

paskur okaypo terketerke SITE

カラスの若者がピョンピョン跳ねて

エソイネ ソイエネ アクス

esoyne soyene akusu

外に出ると

(42) ここから散文の口調で語る。

(43) 久保寺逸彦編(1992)『平成3年度久保寺逸彦アイヌ語収録ノート調査報告書』北海道文化財保護協会：「sokari horippa 爐ノ周田ヲマハッテ horippa スル。酒宴ノ後、余興トシテ、男女入乱レテ行フ。」。

(44) 類話では様々な鳥(スズメ、カケス、ツル、キツツキ、アカゲラ、ヒバリなど)の神が登場する。伝承によって登場する鳥の種類に増減があり、本編はカラスだけが登場している。

シネ シ タクタク コル ワ エク ワ	
sine si taktak kor wa ek wa	一つの糞の塊を持って来て
シントコ オルン オマレ したってゆう	
sintoko or un omare SITATTE YUU	行器の中に入れたんだって。

そういうウウエペケレも子供の頃は、そういうもの聞いたけど、  
 なーんも言わないから、なーんもエパ<sup>(45)</sup> 婆は、なんもわからない。

(3) 言葉遊び：オンネパシクル

オンネ パシクル イーネー	
onne paskur ine?	年寄りカラスはどうした？
ターラ タク ワ イーサム	
tara tak wa isam	俵を取りに行っていない。
ネー タラ イーネ	
ne tara ine?	その俵はどうした？
サケ アカル ワ イーサム	
SAKE a=kar wa isam	酒を造ってしまった。
ネー サケ イーネ	
ne SAKE ine?	その酒はどうした？
アクー ワ イーサム	
a=ku wa isam	飲んでしまった。
アク ルウエ イーネー	
a=ku ruwe ine?	飲んだ後はどうした？
オソマ <sup>(46)</sup> ワ イーサム	
osoma wa isam	ウンコしてしまった。
オソマ ルウエ イーネー	
osoma ruwe ine?	ウンコした後はどうした？
セタ エ ワ イーサム	
seta e wa isam	イヌが食ってしまった。
ネー セタ イーネ	
ne seta ine?	そのイヌはどうした？

(45) エパタイ epatay 「ばか」の省略形である。

(46) 平取町の類話では、アエオソマ a=eosoma と表現している。ここでは人称接辞が脱落したと思われる。

アライケ ワ イーサム

a=rayke wa isam

殺してしまった。

アライケ ルウェ イーネ

a=rayke ruwe ine?

殺した後はどうした？

エビスン レホッ<sup>(47)</sup>

episun re hot

浜の方へ60回

アチョツチャ ワ イーサムって。

a=cotca wa isam TTE

射ってしまった。

よく俺ら子供の頃は、あのフチあと（婆たち）、そう言って、聞いたことあるんだ。

---

(47) 当初、何かの言いかけで「りほ」と発言したと考えていたが、モニター B の指摘で聞きなおすとレホッ re hot と発声しているのがわかり修正した。